

# 風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



立ち上げて行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。

ルカ17：19

【説教要旨】

「立ち上がって」

8月からつい最近まで、夜に高熱が出ていました。検査、検査の日々、救急車で大学病院に行ったりしていました。やっと高熱も治まりました。私は、高校生の時代、腎臓の病気の入退院を繰り返していましたので病気とはこういうものと思いつつも、体調の不良は、肉体的にも、精神的にもつらいものがあることを分かっていました。幸い、礼拝の担当はどうにかできました。みなさんと繋がっていることがきっと良薬になっていたにちがいありません。

今日の聖書の日課を読みますとイエスに癒された人の喜びがいきいきと描かれています。「その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を讃美しながら戻って来た。そして、イエスの足元にひれふして感謝した。」。

不治の病に侵された十人の病気の方々は、病気ゆえに社会から隔離させられていました。本来、こういう人を救う宗教が律法をもうけて、健常者を守るために隔離に手助けをしていました。助けを必要とする人を排除することは宗教の役目でしょうか。しかし、現実には医療も発達していない時代にあって、健常者を守るということも宗教役割であったとは理解できます。

イエスさまは、社会から隔離された10人の病人を癒されました。「14イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われたように社会に復帰するために、律法によるとこの病気がいやされたか

どうか証明していただくために祭司のもとに行き、証明されなければなりません。だから彼らは律法に従って、祭司のところに行ったのです。

しかし、癒された者で、イエスの元に帰ってきたのは一人だけでした。「この人はサマリア人だった」ありますように、彼はイスラエル社会からすれば、生まれつき穢れた、外の人でありました。彼は、癒されたとしても依然とイスラエルの社会では、生きることが閉ざされていたのです。病気のとき社会から疎外されたものとして十人は結びついていました。しかし、彼を結びつけていた病気という障害がなくなると再びサマリア人とユダヤ人の壁がでてきました。九と一という数が、サマリア人ということが示すように、彼は一人取り残されてしまったのです。

しかし、彼は以前のようにもう孤独ではなかったのです。彼はこの世的には、取り残された者ですが、彼は帰るべきところを知ったのです。この世的に帰るところがなかったゆえに、「声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうかわたしを憐れんでください』」と呼びかけに対して、これからも答えてくださる方、この方のもとに帰る自分がいることを知りました。彼の生を根源から支えているものは何であるかということを知った恵みを与えられたのです。病気が癒されたとしてもこの人には人種差別と言う壁は依然と残っていますが、しかし、問題、課題をかかえつつも「声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうかわたしを憐れんでください』」という祈りを訴えることができる。もう自分は一人ではない。根無し草ではない。自分を支えてくださるといふイエスさまがいる。

病気をして、長引くと私たちの前に横たわって、自分を打ちのめしそれそうになります。しかし、私たちはこのサマリア人のように自分を打ちのめすような課題が依然と残っても「声を張り上げて、『イエスさま、先生、どうかわたしを憐れんでください』」と祈れるお方を私たちは与えられているし、その方のもとに戻っていくことができるのです。ここに喜びがあるし、力

があるのです。

私たち信仰者は、戻る場所を九人の人のようにこの世の内に持ち合わせていなくても、私たちはイエスの元にしか、いやイエスのもと以外に返る場所がない者とされています。ここに私たちの生きる出発がある。ここから出発するとき、「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」とイエスさまは祝福をくださるのです。

うなだれるな、しっかりと立ちなさいと励ましをくださいます。ため息がでるようなどうしようもない問題、課題を抱えている。自分ではどうしようもない壁がある。しかし、戻ろう、イエスさまのもとに、そして立って行こう自分の人生のなかを。もう私たちは弱らない、取らわれない、なぜならイエスさまへの信仰がそうおしえてくれます。

ルターはウォルムスの国会で、自説を取り下げるように中世の社会権力者から迫られます。

「皇帝閣下や、諸侯閣下が単純な答えを求めておられますので、……私の良心は神のことばに捉えられています。……私は取り消すことは出来ませんし、取り消すつもりもありません。良心に反したことをするのは、確実なことでも得策なことでもないからです。神よ、私を助けたまえ。アーメン。(私はここに立っている。私は他のことをなし得ない。)」

「神よ、私を助けたまえ。」と祈れる存在とされています。全てが神に捉えられているゆえに私たちがいるのであるという信仰に立って生きていきましょう。

高校生の長期治療の日々に与えられた信仰によって、今回の様な長い高熱が続く日々の中で、耐えられないような病気と向かい合い、また、両幼稚園の課題とも向かい合いながら、「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」というイエスさまが私と共にいて立ち上がらされてくださるという希望を持ちづけました。そして、みなさんと信仰の交わりの中に自分があることが、ここに立つことができました。

## 牧師室の小窓からのぞいてみると



自由民主党は、一方に振れれば、次は、逆の方向に触れ戻すという政党であり、今回は保守から超保守に揺れ戻したということか。そして、理念であつまっているわけでない河野グループを引き継いできた麻生派が生み出した総裁が実現した。歴史的に見ればそうなるだろう。自由民主党らしい動きだった。

次に歴史的に見れば、振り子の振れである女性総裁の選出である。これは大きな振れ方であったし、今の時代が望んでいることを表現した。

「歴史から」見るのが大切であると思う。歴史書である聖書は、今の世界の動きどう見ているだろうか。

かつてあったことは、これからもあり、かつて起こったことは、これからも起こる。太陽の下、新しいものは何ひとつない。

コヘレト 1：9

では、AI（人工知能）による概要は次のように書いています。

太陽の下に新しいものはなく、人生や物事は繰り返されるという認識を示すものです。これは『コヘレトの言葉』1章9節の言葉で、永遠の昔から続くものがあるという、虚無的でありながらも、有限な人生を真摯に生きることを促すメッセージが含まれています。

## 園長・瞑想？迷走記



「不適正な保育」をしてはいけないということと、園児への声掛けを注意して言わなければならないが、ごもつとも思いつつ、一瞬の子どもとの対話で、保育者が子どもに声掛けにいつも注意しながら、子どもと向かい合っては、保育者は疲れてしまわないだろうか。楽しい保育が出来なくなるのではないかといつも思い、危惧している。

楽しい保育が出来るようにどうすれば良いかといつも心を砕いているが答えを見いだせない教育・保育の現場がある。しかし、楽しく子どもも、保育者も過ごせる場を、希望を失わず作っていきたい。

## 日毎の糧

聖書：主を畏れることは知恵の初め。  
これを行う人はすぐれた思慮を得る。  
主の賛美は永遠に続く。

詩編111：10



### ルターの言葉から

真の知恵は自分自身と神を知ることであり、むろんわたしたちが憐れむべき、墮落した罪人であること。神は憐れみ深く、私たちを見捨てることはなく、キリストのために恩恵から救おうとしてくださる。『卓上語録』M.ルター著、植田兼義訳、教文館

### 知恵

ユダヤ教、すなわちヘブライ思想と地中海世界のギリシャ思想の違いがある。ギリシャ思想とはこの世の知識を豊かにしていくことが知恵である。しかし、ヘブライ思想は、神を畏れることが知恵である。何にもまして神を畏れることである。畏れとは、「神を神として、神以外のものを神としないことです。神を神とすること、そこには何か神に対する近づきがたい畏れの感覚がともなうことでしょう。（「真理を求めて LAOS講座第3号」 江口再起 日本福音ルーテル教会）

現代社会の不幸は、人が知恵を多く得て、遺伝子さえ組換えて自分のコピーまでできるという人間の万能感だと思います。知恵を得過ぎた。神を恐れなくなった。だから見てください、世界は混沌なり、いつ滅びても良い終末時間が近づいています。思慮を失った世界が私たちを支配するようになりました。だからこそ、私たちは今の世界の潮流にあらがって、「主を畏れることは知恵の初め。これを行う人はすぐれた思慮を得る。

」ということを伝えていく、伝道が必要になっています。時がよくても悪くても福音を宣べ伝えなさいということが増々、大切になっています。

祈り：神を恐れ、思慮を得ていく人々とされていきますよう、主よ、来てください。

## 甘木通信

### コヘルトから「飲み、食べる」



私は、敬虔なU牧師のもとで、酒、たばこ喫煙は、クリスチャンはしてはいけないと思って育ち、神学校に入学した。

神学校に行き、廊下に酒の瓶が転がり、たばこを吸っているのを見て、驚いたものである。しかし、煙草は別にして、いつの間にか食べ、酒が飲めるようになった。

「見よ、私が幸せと見るのは、神から与えられた短い人生の日々、心地よく食べて飲み、また太陽の下でなされるすべての労苦に幸せを見いだすことである。それこそが人の受ける分である。コヘルト5：17」

ブラジルの教会は、実家の様なもので、昼飯を、そしてあるときは夕飯まで食べてみんそれぞれの家に帰った。お客さんが教会に来れば、最高のもてなしをした。実に楽しい思い出しかない。ちなみにドイツ人教会で開催される地区教会会議はビール、ドイツ料理からはじまる。日本人教会で行われたときは、日本ワイン（日本酒）、日本料理をもって、会議が開かれた。「見よ、私が幸せと見るのは、神から与えられた短い人生の日々、心地よく食べて飲み」という神から与えられた幸せを互いに味わった。いっしょに食事するということが民族をも超えて楽しく幸せをいただくということを実感した。一期一会、明日は互いにどうなるか分からない神から与えられた短い人生の日々、だからこそ飲食を大切にする幸いを恵みではないかと思うようになった。

(甘木日記)土) 体調も守られて名づけ子(29歳)の結婚式で挨拶が出来た。日) 体力も回復したのか行き帰り、電車で教会に行き、礼拝を守れたことは感謝である。月) 幼稚園に最後までいた。甘木教会の役員会議事案を作成。火) 主任、設置者が休みで、出なければならず最後までいる。体調もよく、庭の掃除をして帰宅。水) 幼稚園で子どもらと過ごす幸せをいただく。木) 保育園での聖書の学び、子ども礼拝、幼稚園に帰り、様子を見る。金) 体力も回復しつつありバスでなく歩いて幼稚園に行く。

**おまけ・牧師のぐち**（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。  
ぐちらない聖人（牧師）もいますが。



土) 名付けた子（29歳）の結婚式に出席出来て、主賓挨拶が出来て嬉しい。本当は日善幼稚園の「園説明会」であるが、主任と事務担当者が責任をもってやったださる。主任は、明日が大切なことが控えているのにもかかわらず助けていただいた。本当に多くの人に助けられて

（おみなえし）いる。「ありがとう」と「申し訳ない、ごめん」の繰り返し。東京から久留米に着いたのは23時を越している。メールを確認し、返信し終わったのは0時48分。日) 朝、祈り、メール確認して、返信。体調もよく家内と二人で、電車で甘木に久しぶりに向かう。稲穂が垂れる田園を満喫。礼拝、私が倒れた時に役員が変わって出来るように礼拝職務の権限を委託する式、祈りを行う。これでどんなことがあっても安心である。礼拝後、にぎやかに宗教改革記念礼拝の準備をする。二人で50分間の帰りの電車、交互に二人でうたた寝している。老いたと感じる妻の寝姿見ながらブラジル時代も一緒に夜行バスで礼拝にいていたことを思い出す。月) 流石に体力もなく、園で留守番。礼拝をいれての運動会の練習を大和牧師・設置者が導いてくださる。羽村幼稚園のzoom会議。火) 朝来ると職員が花への水遣り、掃除をしてくださる。教会員のI姉が助けてくださり、主任、設置者が休みであったが、皆さんに助けられ、最後まで園におられた。体調もよく、帰りに園庭を掃除出来た。今日も帰りの職員の車に同乗出来て助かった。多くの方に助けられている。感謝のみ。水) 昼休みの午後から、妻と年金事務所に「もう、正月か」と感じる風景➡遺族年金について聞きに行く。幼稚園に帰る途中、正月の巫女さん募集の看板を見る。「もう、正月か」と呟く。光陰矢の如し。帰り際、頑張った先生方と賑やかなお別れの挨拶。こういう時が幸せである。体力がなくすぐに寝たくなる。木) 今日は松崎保育園の聖書の学びと子ども礼拝。駅まで送り迎えをいただき、体力が落ちている私には嬉しい。礼拝の度に声をかけてくれる子どもらに励まされる。市役所に妻のマイナンバーカード作りに行った後、幼稚園に帰る。早く帰り、羽村幼稚園のzoom会議。体力がなくへたっている。回復まで時が必要か。すべてに時があり、焦らず。金) 体力も回復しつつありバスでなく歩いて幼稚園に行くが、やはり一週間はきつく、終礼が終わりバスで帰宅し、静養する。今週も妻に支えられ、ここまで来られた。

